

令和5年 第9回

教育委員会定例会会議録

とき 令和5年7月11日

品川区教育委員会

令和5年第9回教育委員会定例会

日 時 令和5年7月11日(火) 開会：午後3時
閉会：午後5時3分

場 所 教育委員室

出席委員 教 育 長 伊崎 みゆき
教育長職務代理者 富尾 則子
委 員 海沼 マリ子
委 員 塚田 成四郎
委 員 吉村 潔

出席理事者 教 育 次 長 米田 博
庶 務 課 長 宮尾 裕介
学 務 課 長 柏木 通
指 導 課 長 中谷 愛
教育総合支援センター長 丸谷 大輔
特別支援教育担当課長 唐澤 好彦
品川区図書館長 吉田 義信
学校施設担当課長 森 雄治
統括指導主事 升屋 友和
統括指導主事 齊藤 隆光

事務局職員 庶 務 係 長 菅野 祐輝
書 記 藤沼 真也子
書 記 田島 希望

傍聴人数 15名

そ の 他 品川区教育委員会会議規則第14条の規定に基づき、会議の一部を非公開とした。

次第

- 協議事項 1 令和6年度品川区立学校使用教科用図書の仮採択について（小学校・義務教育学校（前期課程）算数・理科・生活）
- 報告事項 1 令和4年度後期一般監査の措置結果について
- 報告事項 2 教職員の任免等について（休職）

【教育長】 ただいまから、令和5年第9回教育委員会定例会を開会いたします。

署名委員に、海沼委員、塚田委員を指名いたします。よろしくお願いたします。

本日は、傍聴の方がおられますのでお知らせいたします。

続いて、会議の持ち方についてですが、日程第2、報告事項2、教職員の任免等について（休職）、本件は人事に関する案件ですので、品川区教育委員会会議規則14条の規定に基づき非公開の会議といたしますが、御異議ありませんか。

（「異議なし」の声あり）

【教育長】 異議なしと認め、本件については、全ての日程の終了後に審査いたします。

それでは、本日の議題に入ります。日程第1、協議事項1、令和6年度品川区立学校使用教科用図書の仮採択について（小学校・義務教育学校（前期課程）算数・理科・生活）。説明に入る前に、本件につきまして、吉村委員は他の業務との関係で審議に参加することができませんので、一旦、御退室いただきます。

（吉村委員退室）

【教育長】 それでは、説明をお願いいたします。

教育総合支援センター長。

【教育総合支援センター長】 令和6年度品川区立学校使用教科用図書の仮採択について、本日は、小学校・義務教育学校（前期課程）の算数・理科・生活の3種目について御審議いただきます。各教科の説明については、担当指導主事より説明いたします。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 算数の教科書について説明いたします。

小学校学習指導要領及び品川区立学校教育要領では、算数科において育成する資質、能力を数学的に考える資質、能力と表し、数量や図形についての基礎的・基本的な概念や性質などの理解や、日常の事象を数理的に捉え、見通しを持ち、筋道を立てて考察する力、また、算数で学んだことを生活や学習に活用しようとする態度などを挙げています。また、これらの資質、能力全てについて、数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して育成するということが求められています。今回の教科書採択に際しても、これらの点に重きを置いて調査研究をしていただきました。

それでは、資料1-1を御覧ください。

1、内容の（1）児童の発達段階への配慮です。

教科書は、1年生の1冊目を御覧ください。6社全てにおいて、1年生入門期での児童がスムーズに算数の学習へと導入できるような工夫がありました。その中で、最初の数単元を分冊にしているのがA社、C社、D社、E社になります。さらに、A社、C社、E社は、分冊を4判にワイド化していました。

資料に戻りまして、内容の（2）内容の分かりやすさへの配慮を御覧ください。

算数において多くの児童がつまづきがちと言われる4年生のわり算の単元で比較をしていきます。各社、4年生、上下巻になっている場合は、上巻の教科書の緑の付箋のページ

をお開きください。

それでは、A社から順番に見ていただけたらと思います。

A社は36ページです。A社につきましては、そのように写真を大きく用いることで課題が捉えやすくなるという工夫をしています。

次に、B社は、62ページのところかと思えます。こちらを御覧ください。小さい数字での考え方から導入を始めていくという配慮があります。さらに、ブロック図で理解をサポートする配慮があります。ブロック図のサポートは、ページを進めていただきまして、わり算の筆算の学習のところまで進めていくようになっていきます。

続きまして、C社は、38ページのところかと思えます。わり算の筆算の仕方について、ほかの社は縦に表示をしているんですけども、C社につきましては、横に流れるような表記になっていて、比較がしやすく、手順の理解の助けになっています。

次に、D社は、36ページを御覧ください。例題を小さい数字の問題から始めて、徐々に大きい数字の問題にしていくという工夫があります。

資料に戻りまして、デジタルコンテンツについては、各社それぞれに充実させています。C社は、全ての解説動画に音声や字幕がついているという特徴がありました。

続いて、構成と分量の(1)内容の配列の仕方、単元・教材等の系統性や発展への配慮についてです。内容の配列については、各社とも多少の前後はあるものの、特に大きな違いはありませんでした。ただ、2年生のかけ算では、B社とC社は5の段から使うようになっております。A、D、E、F社については2の段から扱っているという違いがありました。

次に、(4)教材の特質に即した教材の構成と基礎・基本的事項に対する配慮です。各社とも、単元の最後に振り返りのページがあり、基礎的・基本的事項の確認ができるようになっていきます。

各社、5年生の教科書の青い付箋のところをお開きください。A社は37ページを御覧ください。「たしかめ問題」が2ページ分あり、そこで単元の振り返りができるようになっています。

B社につきましては、32ページを御覧ください。「できるようになったこと」と「まなびをいかそう」と「考え方モンスターでふりかえろう!」と「算数パトロール隊」として4ページ分あります。

C社につきましては、92ページから「まなびのまとめ」として2ページ分あります。

D社は、88ページを御覧ください。「わかっているかな」と「たしかめよう」で2ページ分取っています。

E社は、82ページまで「学習のしあげ」として2ページ分あります。

F社は80ページです。「たしかめよう」として1ページ取っています。

資料に戻りまして、3、表記と表現の(1)表記に対する配慮についてです。

A社のみ、習っていない漢字については、出てくるたびに全てルビがふられており、B社からF社については、同じページ内で最初に出てきた漢字のみにルビがふられています。

続いて、資料の4、学習活動の(1)主体的・対話的で深い学びの実現に対する配慮です。

どの会社においても、巻頭で「算数の学び方」について示し、主体的・対話的で深い学

びの実現について、そこにつながるようなサイクルをつくっていました。

次に、学習活動の（２）課題や問題を見付け、その解決に向けた学習に対する配慮を御覧ください。

どの教科書についても、単元のはじめに日常の生活場面から問題解決学習につながっていく流れができており、また、数学的な見方・考え方を働かせて学習できるようポイントが示されていました。

ここで6年生の教科書の赤い付箋のところをお開きください。

A社は、10ページに「算数の大切な考え方」として、数学的な見方・考え方がそのように示されております。

B社は、9ページで、算数で見つきたい「考え方モンスター」として9つの具体的な見方・考え方を示しています。また、各授業時間の終わりには、ページの下に黄色いはてなマークがあるところがあるのですが、そこにありますように、次の時間につながるような疑問が示され、数学的活動のサイクルが具現化されています。さらに、29ページに進んでいただきたいのですが、そこで単元の終わりに、その単元で使った数学的な見方・考え方へ振り返るようになっております。

C社にいきまして、C社は、まず、9ページに「算数で使いたい考え方の進め方」があるほか、182ページも御覧いただきたいのですが、そちらに見方考え方を深めようという特設コーナーがございます。

D社につきましては、巻末に数学的な見方・考え方が一覧となってまとめられていて、それが切り離して各時間使えるようになっております。

次に、E社につきましては、他社と同様、学習のポイントとなるところでアイコンで数学的な見方・考え方を示すようになっております。

F社にいきまして、F社は、4ページに「算数で使いたい見方・考え方」があるほか、6ページにも、「いつも大切にしたい算数の考え方」というものがあり、例を示して確実な理解を図るようになっております。

それでは、資料に戻りまして、5、造本の（２）製本は体裁がよく堅ろうであり、安全や環境への配慮についてを御覧ください。

A社は、1年生の分冊のみ4判、それ以外の学年はB5判1冊になっております。

B社は、全学年A4判で、5年生までは1冊、6年生には「中学校へのかけ橋」という1冊があります。

C社は、1年生の分冊のみA4判、それ以外はB5判です。また、4年生までは2冊、5・6年生は1冊になっております。

D社は、全部学年B5判、4年生までは2冊で、5・6年生は1冊になっております。

E社は、1年生の分冊のみA4判、それ以外の学年はB5判です。また、5年生までは2冊、6年生は1冊になっております。

F社は、全学年B5判、1・5・6年生については1冊、2・3・4年生については2冊になっております。

続いて、6の地域性については、特に大きな差異は見られませんでした。

最後に、7、総合所見です。

A社については、黒板を背景として児童が考えを発表しているイラストが多く、児童も

教師も授業のイメージを持ちやすくなっています。また、単元最初の問題を右ページで投げかけ、めくった左ページに考え方や答えが載っているので、導入でじっくり児童に考えさせることができます。

B社につきましては、数学的な見方・考え方の具体的な例示として、9つの考え方モニターが設定され、児童が見方・考え方を働かせながら、主体的に問題解決に取り組めるような配慮がなされています。また、振り返りのページを充実させることで、基礎的・基本的事項の定着を図っています。

C社につきましては、デジタルコンテンツの解説動画が全て音声つき、なおかつ字幕表示もあって分かりやすくなっています。個別に学ぶときや復習、家庭学習にも活用することができます。

D社については、数学的な見方・考え方がアイコンで示され、学習のポイントとなる場面で示されているほか、巻末にも一覧となって掲載されており、これは切り離して活用することもできます。

E社については、単元の最初に日常場面や既習事項から疑問を提示し、算数の問題へとつなげていく工夫がありました。また、学習の導入に活用できるオープニングムービーがあり、児童の学習への関心を高めることができます。

F社については、主体的・対話的で深い学びの実現につながる配慮として、巻頭の「みんなで算数をはじめよう」のコーナーのほか、「算数が好きになる初めの一步」というコーナーを設けて、例題を解きながら学びのサイクルを体験できるようになっています。

以上で説明を終わります。御審議、よろしく願いいたします。

【教育長】 では、説明が終わりました。質疑、御意見はございますか。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 各社それぞれに難しそうだとか、ちょっと分かりやすそうだとかというのがあろうと思うんですけども、品川区のお子さんたちの今の段階に合ったのはどこかというのは検討委員会の中ではお話が出ましたでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 調査研究会の先生方に関しても、学力差への対応というところで、毎回話し合いをしながら調査研究のほうを進めていただいております。特に他区と比べて品川区がどうかというよりは、教員が指導するに当たって支障のある学力差であるかどうかというところで、やはり何らかの工夫であるとか、それに適した教科書を使うであるとか、そういったことに気を回していかなければならないような学力差という実態があるという状況です。

そこで、お話になったのは、もちろん学習が一概、何というのか、一つの表現でいうと、学力が高くて、自分でどんどん問いを立てて進められていくようなお子さんに対する対応も、今、喫緊の課題ではあるのですけれども、まずは、学習がちょっと遅れがちのお子さんに対して、最低限の学びを保障するというのが最低限公立学校として提供していかなければならない学習であるというところで、調査項目としては、やはり基礎的・基本的事項に関して、特に丁寧にその部分に配慮している教科書はどこかということに観点を置きながら、研究のほうを進めていくというような、そういった状況が特にございました。

以上です。

【富尾教育長職務代理者】 分かりました。

【教育長】 ほかに、塚田委員。

【塚田委員】 実際の授業の中で予習とか復習というのは必ずやらせるんですか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 予習をやっていきなさいということはありません。ただ、毎日の宿題の中で、計算ドリルなどを私費会計で買っていたりもするので、今日学んだところの振り返り、復習、習熟として、計算ドリルのこの部分を宿題として出しますということはありません。そのほかに各家庭の方針で予習や復習をやってくるということはあるかと思いません。

以上です。

【塚田委員】 そうするとね、予習はあんまり重視されないようなんですけど、できる子だとね、予習して教科書を読んで、授業中は、そんなのここに書いてあるよというふうな子が出てくる可能性はありますね。その辺はどうなんですかね。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 品川区においては、小学校に関しては、全校習熟度別学習を行っておりまして、そのための教員も配置をしております。様々な多様な観点で習熟度のクラスを設けて、ただ学力が高いというだけではなくて、自分が難しい問題を解きたい子とか、ゆっくりやりたいという児童本人の意思も尊重しながら、クラスを決定しているんですけれども、その場合にその習熟の早いクラスにおいては、もちろん、ただ教科書をやるだけというわけではなくて、教科書もしかしたら様々工夫がなされておりますので、発展的な学習のところを提示をしていたり、デジタルコンテンツの中では、さらに進んで学んだことを生かして、日常の中でどのように活用できるかといったことや、発展して世界の中ではどういった問題になっているか、例えばですけども、そういったことも学習できるようになっていますので、その提示もあります。

デジタルコンテンツを使わない場合ですと、算数というよりは、数学のカテゴリーに入ってくると思うんですけれども、自分で学んだその公式であるとか、法則であるとか、そういったことをいかに友達に説明できるか、解けるということと説明できるということは違うということと、あとは、いかに説明できるかということは、自分の中の定着度が測れるということもありますので、その部分で友達に、誰もが分かるように説明してごらんという部分、そういったその課題を出していたり、あるいは自分で問題をつくってみて、それを友達と解き合うというような活動場面も設けたり、そういったことをしながら、各学校が工夫して、教科書も活用しながら、発展的な習熟度の高いクラスに対する対応をしているところです。

【塚田委員】 分かりました。

【教育長】 海沼委員、お願いします。

【海沼委員】 1年生が分冊になっていますよね。

【指導主事】 はい。

【海沼委員】 この分冊というのは何か意味があるんでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 分冊になっておりますと、薄いので、開いて書き込みがしやすいという

メリットがあります。そうしますと、ノートを使わずとも、1年生はノートがちょっと難しいというところもありまして、ノートを使わなくても、学習を進められることができるというメリットがあるというふうな意見が調査研究会のほうからありました。

【海沼委員】 分かりました。

【教育長】 では、私からもよろしいでしょうか。

先ほど職務代理者の質問で、品川区として、お子さんによっては、算数に関しての学力がそんなに高くない子供がきっちり基礎的なものを身につけられるようにしていくというのがまずは大前提で、その上で、高いお子さんに関しては発展的な学びを、まず習熟度別の中でそれぞれやるということであったんですが、そうすると、教科書としては、今、例えばAとBを比べてみると、かなりBのほうにモンスターとか活用していて、取っつきやすいかなという感じがします。Aはちょっと字が多い印象があるんですけども、今の考え方だと、そういった、簡単に言うと、誰でもが使える基礎的なところが分かりやすいというのは、研究会の中では、どのあたりの教科書について出たのでしょうか。

指導主事。

【指導主事】 どの教科書も、みんな、たくさんの工夫、配慮がされているので、基本的にはどの子も確かな学びを習得できるような、そういった配慮はされているんですけども、特に品川区のその調査研究会の先生方が、これは個人的に使いたいとか、そういったつぶやきなどを聞いておられますと、調査項目でいくと、やはり先ほどの基礎的・基本的事項に関する配慮でありますとか、その中で、数学的な見方・考え方を働かせることが数学的な資質を身につけることにつながっていくので、数学的な見方・考え方を働かせた学習の進め方について十分に配慮がされている教科書がよいのではというような声が聞かれました。

【教育長】 そうすると、全部がされているとなると、結構比較が難しいかなというのはあるんですけども、例えば、さっきお話ししたみたいに、モンスターみたいなこういうアイコンというのか、キャラクターを使われている教科書のほうがいいのか、逆にそういうものが邪魔になっていくのか、その辺はどうなんでしょう。

指導主事。

【指導主事】 キャラクターを用いて、考え方を提示することに関しては非常に肯定的で、特にその具体的に、考え方はこういうことが大事だよではなくて、数学的な見方・考え方というのは、小学校の算数においては、具体的にどういう状態を示すのだろうというのが、より子どもたちの中でもイメージできるような、そういったされ方をしているものがとてもいいのではという評価はありました。そういった意味では、9つに分かれている考え方モンスターであるとか、そういったものは使いたいなという声はとても多かったと思います。

【教育長】 ありがとうございます。

あと、もう一個聞いていいですか。デジタルコンテンツで、結構オープニングムービーが、何かにぎやかな動画があるみたいなのがあったんですけど、そういうのって、一人で見るのはいいと思うんですけど、集団で学習する上ではどういう効果があるのでしょうか。

指導主事。

【指導主事】 デジタルコンテンツも非常に各社充実しておりまして、音声がついてい

たりオープニングムービーがあったりということなのですが、音声がついていることに関しては本当に賛否両論で、家庭学習であるとか、例えば様々な事情で不登校であるとか、そういった事情で家で見る分には、先生がいなくても音声で、または効果音で学習を促してくれるという、非常に効果的なんですけれども、授業の中で活用というと、どういったアイデアがあるかなという、ほどんどアイデアが出てきませんので、音がでてしまうと、その分、ちょっと時間を取ってしまうことと、先生が話せなくなってしまうといったことであるとか、あとは、個別に教室内で自学をする場合には、ほかのお子さんの学習の妨げになってしまうので、授業時間内では使えないといった声もありました。

【教育長】 ありがとうございます。

ほかに何か御質問、御意見はございますか。

海沼委員。

【海沼委員】 先生方が使いやすいというところはいかがでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 例えば、指導経験が浅くて、どのように授業を運んでいったらいいのか、そこに不安があるという先生には、例えば、Aの教科書のように、開くと板書まで載っていて、たちどころにこのように少し進めていくといいのかというのが分かる。子供たちのほうでも、課題をつかみやすいといったところがとても安心できるような、そういった材料になるのではないかといいところがありました。

一方で、やはり数学的な見方・考え方を働かせながら、数学的な資質、能力を育てる、そういったところに向かうための指導を先生がどのように行っていったらいいのか、その面で教科書を活用するという意味で考えますと、やはりその見方や考え方をどのように表しているのか。それを支えにして子どもたちに指導していくという形になりますので、その提示の仕方が子どもたちにとって親しみやすいとか、具体的であるとか、そういった配慮がなされているものが先生にとっても使いやすい教科書と言えるんじゃないかと、調査研究会の先生方も望んでいると思います。

以上です。

【教育長】 よろしいですか。はい。ほかにはございますか。

一個だけ、あと、いいですか。

Dの教科書の表紙がかなりにぎやか、あんまり中身と関係ないですが、にぎやかなんですけども、こういうのって、学習をやる中で、例えば何か、発達障害の傾向があるお子さんとかって、表紙については影響ないのでしょうか。

指導主事。

【指導主事】 教科書採択の上で表紙のイラストというのは非常に話題にはなるところですが、算数の調査研究会では、このにぎやかな表紙が子どもたちのそのワクワクする感覚を喚起するという声もある一方で、やはり教育長がおっしゃったとおり、ちょっと特性とか傾向をお持ちのお子さんに関しては集中が途切れてしまうのではといった心配の声もありました。

以上です。

【教育長】 ありがとうございます。

ほかにはありますか。よろしいですか。

それでは、質疑や意見が出終わりましたので、最終的にどの教科書を推すのか、御発言をいただきたいと思います。

富尾職務代理者からお願いいたします。

【富尾教育長職務代理者】 私は、Eがいいと思ったんですが、より丁寧につくられているというところでは、E社が視覚的にも非常に分かりやすいですし、取りかかると、E社がいいと思います。

【教育長】 ありがとうございます。

塚田委員。

【塚田委員】 私の経験ですとね、小学校の算数というのは、鶴亀算がね、非常に難儀でした。それでね、鶴亀算は時間とって考えていくんだけど、結局ね、中学へ入って方程式を教わったら、簡単に解けちゃうんですね。何で小学校で教えてくれないのか。だからね、鶴亀算は、僕は、学習指導要領に載せるのはちょっと反対なんです。そういう意味でね、BとEとFは、中学校での数学というつなぎを入れているんですね。それでいいかなと思ったんですけど、まあ、3ついいねと言ってはしようがないんで……。

【教育長】 そうですね。

【塚田委員】 Eにします。

【教育長】 はい。

【塚田委員】 Eがいいと。

【教育長】 海沼委員はいかがでしょう。

【海沼委員】 私も、Bか、Cか、Eかなと思ったんですね。Bは非常にこのAB判で見やすいかなと思ったんですね。内容的にもこう見て、あ、分かりやすいのかなと思って見ていたところなんです。E社のは、このサブタイトルっていうんじゃないんですけど、この考えたことがつながり、こっちに書いてあるので、これもちょっと変わって、見やすくしていいのかなって思ったところなんですけどね。

あと、C社も、まあ、ちょっと難しいのかもしれないんですけども、何かこう、見て見やすいなという感じで見てたんですね。でも、どれがいいのかなと、子供たちにとって、あと、また、今、先生方のお話を伺って、Bか、Eかなっていうので、私はBのほうがいいのかなと思ったんです。

【教育長】 ありがとうございます。

私は、B社がいいかと思って、やっぱり子供たちに親しみやすい教科書というのが、算数の場合は一番で、3年ぐらいから抽象的な考え方が入ってくるときも、この同じモンスタースタさんが考え方というところをちゃんと冒頭に示してしてくれるので、そんなに違和感なく移っていけるかなというところが強みかなと思いました。

塚田委員がEということなんですけども、ほかの3人がBということで……。

【塚田委員】 いや、私もね、BかE。

【教育長】 BかEですね。

【塚田委員】 あるいはFね。でも、3つ言ってもしようがないから。いいですよ、Bで。

【教育長】 Bも推しの中であるということで、御意見のほうBということで承知しましたので。

【塚田委員】 はい。結構です。

【教育長】 はい。B社に仮決定することといたしますが、御異議ありませんか。
(「異議なし」の声あり)

【教育長】 それでは、算数はB社に仮決定をいたします。
続いて、理科について説明をお願いします。
指導主事。

【指導主事】 理科の教科書について、御説明いたします。

理科では、品川区立学校教育要領にあるように、自然の事物、現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しを持って観察、実験を行うことを通して、科学的に探求するために必要な資質、能力を育成することを目標として指導を行っています。

まず、一覧表の1、内容の特色について御説明いたします。

(1) 児童・生徒の発達段階への配慮についてです。

各社5年生の教科書を御覧ください。赤付箋①と記された付箋ページをお開きください。

どの教科書も、理科の学習の進み方、学び方、楽しみ方という項目を巻頭に配置し、理科の探究活動、問題を見つける、調べる、まとめるを各学年の身につけるべき資質、能力とともに記載しています。

A社、D社、E社は、学習の流れを縦に表しています。B社については、思考のサイクルを円状に、C社は横で表しています。A社は、ロールプレイングゲームの画面風になっていたり、C社は、漫画を用いて4年生で学んだことのつながりを示していたりと、各社、発達段階への配慮が見られます。

続きまして、内容の分かりやすさへの配慮です。

こちらは、4年生の教科書の赤付箋②と記された付箋ページをお開きください。

ここでは、4年生の閉じ込めた空気や水の単元で、空気を注射器や筒に閉じ込めて押し縮めたときの筒の中の空気の様子の表記で、各社の特色を御紹介いたします。A社、B社、C社、E社については、筒の中の空気の様子を丸い粒や表情、色の濃さ、ばね、スプリングなどで表し、児童の思考を可視化、モデル化する手助けをしています。D社については、モデル図を示すことはありませんが、学習後の発展でクエスチョンマークで表した筒の中の様子を予想させるような取組を取り入れています。

理科の見方とは、様々な事物、事象を捉える理科ならではの視点ですから、目に見える状態、目に見えない状態を目に見える形にして、自分の考えを顕在化することは重要です。この資質、能力向上のために、各社、可視化、モデル化を取り入れています。

続きまして、(3)小学校と中学校の学習の接続や系統性、関連性への配慮についてです。

こちらは、5年生の教科書を御覧いただきます。青付箋③と示された付箋ページをお開きください。

ここでは、5年生の「電流と電磁石」、「電流がうみ出す力」の単元で御説明いたします。A社とC社は、中学校の学習内容である電磁誘導について触れています。A社は、「やってみよう」のページで、C社は、「Science world」で紹介しています。B社、D社、E社は、身の回りの電磁石を利用したものを紹介しています。

学習内容の接続という観点からいたしますと、A社は、電磁石から鉄の芯を抜いてコイルのみにして電流を流し、方位磁針に近づける発展的な実験を掲載しています。C社につ

きましては、読み物として、電流と磁石の関係、電磁石の発明を詳細に記載しています。

次に、2、構成と分量の特色について御説明いたします。

(1) 内容の配列の仕方、単元・教材等の系統性や発展への配慮です。

こちらは、5年生の教科書を御覧いただきます。青付箋④と記された付箋ページをお開きください。教科書によって学ぶ順番、単元配列が異なっています。

A社は、ふりこの動きの学習、B社は、植物の学習、C社、D社、E社は、天気 of 学習から始まります。この違いは、5年生ですぐに条件制御を学ぶのは難しいと考えられるため、条件制御という考えを緩やかに養うために、各社、創意工夫した結果と考えられます。もちろん、季節に左右される単元の配列を変えていることはありませんが、各社の考える資質、能力を養うための最適な単元配列にしていると考えられます。

続きまして、一覧表の3、表記と表現の特色、(2)教材の特質に即した表現等への配慮です。

まず、SDGsとの関連性についてです。各社ともに、SDGsについての記載、記述が見られ、環境と私たちの暮らしの関連が学べます。B社については、SDGsのほかに、STEAM教育にも触れて学習が進められるようになっています。

表現への配慮については、3年生の磁石の性質の学習を例に御説明いたします。3年生の教科書、赤付箋⑤と示された付箋ページをお開きください。

磁石の性質として、鉄を引きつけ、N極とS極のように違う極同士を引きつけ合い、同じ極同士だとしりぞけ合うことを学びます。品川区立学校教育要領や学習指導要領にも「引きつけ合う」「しりぞけ合う」と記されており、学習後にはこの表現を身につける必要があります。

各社の教科書を見てみますと、A社とC社は、単元の初めから最後まで「引きつけ合う」「しりぞけ合う」。B社、D社、E社は、単元当初は「つく」「つかない」、学習が進むにつれて「引き合う」「引きつけ合う」「しりぞけ合う」の表現に変わっていきます。

一覧表の4、学習活動の特色について御説明いたします。

(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に対する配慮です。こちらは、5年生の教科書を御覧いただきます。赤付箋①と記された付箋ページとなります。お開きください。

各社の教科書の学習課程を調査委員会のほうで分析をいたしました。観察、実験の流れは、各社、観察、実験の結果が、実施前に分からないように見開きでは扱わず、ページをめくると、実験結果や考察、結論、まとめが分かるようにレイアウトされていて、児童が見通しを持って主体的に学習に取り組める工夫がされています。

また、(2)課題や問題を見つけ、その解決に向けた学習に対する配慮についてですが、各社、単元の冒頭では、身の回りの事物、現象を提示した写真を取り扱っています。A社、C社に関しては、見開き2ページで扱う構成としています。

次に、5、造本について御説明いたします。

どの会社も、UDフォントを採用しており、全ての子供たちが見やすい配慮をしています。

教科書の大きさですが、A社とB社がA B判、C社とE社がA 4判の大きさ、E社については、A B判よりもやや大きめのA B判を採用しています。

一覧表の6、地域性の特色について御説明いたします。

(1) 品川区や東京都の地域に対する配慮についてです。

4年生、5年生の天気の変化についての学習や季節の移り変わりを学ぶ学習では、東京都の様々な地域の写真が紹介されています。また、5年生で扱う災害や防災についての学習では、A社、C社、D社で多摩川の増水のことに触れています。B社では、江戸川区にあるアメダス観測所、E社は、環状7号線地下にある調整池が紹介されています。

品川区との関連で言いますと、C社の4年生、6、7ページを御覧ください。C社の4年生、6、7ページを御覧ください。

天気と気温の変化の導入で品川学園の写真が使用されています。こちらは、動画コンテンツにも掲載されていました。

最後に、7、総合所見について御説明いたします。

各社の長所、特色をお伝えいたします。

A社では、5年生を例にいたしますと、「電流と電磁石」では、電磁誘導について深く記載し、中学校の接続性が図れているところが見られました。

B社についてです。くらしとのつながりをSDGsとSTEAM教育の両方に触れて学習が進められています。

C社、季節の単元が細やかに設定されていて、「雨水の行方」では、児童の思考から出てくるであろう「蒸発」について触れています。

D社、児童に身近な鍵盤ハーモニカの断面の写真など、身近なものになかなか見ることができないところを大きめの写真を用い、焦点を当てているという特色が見られました。

E社、実験方法の工夫に特色が見られました。児童の自然な思考に沿った実験方法を掲載していたり、結果が分かりやすく、児童の興味関心を引く実験方法を記載していたりするところが見られました。

以上で説明を終わります。御審議よろしく願いいたします。

【教育長】 説明が終わりました。質疑や御意見ございますか。富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 お話を聞いていた中で、ちょっと分かりにくかった部分についてなんですけど、2、構成と分量の(1)内容の配列について、お話の中で、条件制御の考え方が何とかがおっしゃっていたかなと思うんですけど、この配列について、条件制御の考え方っていうのはどういうことなんですか。教えていただけますでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 条件制御でいたしますと、例えば、この単元ですと、発芽の条件であったり、例えば、水、気温、空気であったりっていうようなところで、どれがその発芽の条件のきっかけになるかというようなところが、この後の単元で入ってくるということで、ただ、置いただけでは発芽はしないんですけども、それぞれ様々な条件を、例えば、冷凍庫に入れるとか、そういったようなところで、一つの条件だけを変えていったときの比較をする実験がこの学年から多く入ってくるようなところなので、いきなり習うときに取り組むというよりは……。

【富尾教育長職務代理者】 そこから入らないように。

【指導主事】 はい。それよりかは緩やかに入っていったほうがいいのかというのを調査委員会のようなところで意見として出たところです。

【富尾教育長職務代理者】 なるほど。分かりました。ありがとうございます。

【教育長】 海沼委員はいかがでしょうか。

【海沼委員】 実験が入ってきますよね、理科ですと。そうすると、若い先生が使いやすい教科書というのはあるのでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 今回、委員会、教科書研究会の一番最初のスタートの教科書を調査する際に重要視したテーマが2つ、まずありまして、1つ目、指導者の扱いやすさです。そして、もう1つ目が、観察、実験の行いやすさということで選びました。実際に新規採用教員であったり、理科ですと、講師で授業を教えていたりということで、様々な教員がパッと見たときにすぐに準備するもの、そして、安全に取り組める実験内容であることというところを重視しました。委員の中では、どうしてももう少し発展的なところもあったんですけども、コロナ禍の3年半の制限というふうなところも含めたので、できるだけ多くの教員がすぐに取り組めるであろう中身のところに視点を置いて調査していただきました。

以上です。

【海沼委員】 そうすると、質問の答えが分からないんですけど、ちょっと分かりやすく、すいません。

【指導主事】 委員の意見としては、実際にその火を扱うのが4年生で、理科室の使い方というところが、実際理科室を使ってというのが4年生の火気のところからになるので、安全管理のところは、各社、しっかりと載っていたんですけども、パッと開いて、学習の展開、分かる構成になっていたというのがA社、C社がよかったというような意見が委員の中から出てきてはいます。

【教育長】 よろしいですか。

【海沼委員】 はい。

【教育長】 ほかに何か御質問、御意見ありませんか。

塚田委員。

【塚田委員】 D社は、これ、かなり大きい感じがしますが、それについて何か話題になりました？

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 D社は、そうです。特に写真がアップで見やすいというような意見は出ていました。かなり拡大しています。

【塚田委員】 肯定的な意見ですか。

【指導主事】 はい。そうです。

【教育長】 はい。よろしいですか。

【塚田委員】 はい。

【教育長】 はい。富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 7の総合所見のところ、E社について、実験方法の工夫に特色が見られるということなんですけれども、もうちょっと詳しく教えていただけますか。その実験方法の工夫というところについて。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 具体的にお示しすると、4年生の⑥の付箋のところがいいと思うので、

お聞きください。4年生の⑥です。緑付箋です。

ここでは、空気の温度を変えて体積の変わり方を調べる実験を行っている単元となります。各社を比べてみますと、実験の方法が違うことに気づかれると思います。各社の実験方法には、それぞれ実験する器具や道具も違いますし、扱い方も違います。最終的には、空気が温められて温度が高くなると体積が増える、冷やされて温度が低くなると体積が減ることという結論を導き出すのですが、そこに至る道のり、実験のプランが異なっております。

A社とC社の実験では、試験管の縁に石けん水の幕を張ってお湯で温めて体積膨張の様子を確かめます。B社、D社、E社は、細いガラス管を用いて、水やゼリーで塞ぎ、その位置の変化を見て、体積膨張の様子を確かめていきます。これらの実践方法について、教科検討委員会のほう、研究会のほうでは、先生たちがそれぞれ実験したときの体験談もありましたが、やはり扱い方、慣れている先生と慣れていない先生で一長一短があるような意見が出ましたが、安全の管理とすれば、AやCのほうがよいのではなかろうかというような意見もありました。

【教育長】 よろしいですか。大丈夫ですか。

【富尾教育長職務代理者】 私は何かEのほうが分かりやすいように思ったんですけど、でも、まあ、教科検討委員会の先生方はそのように、はい。

【教育長】 今、Eのほうが分かりやすいんじゃないかというような御意見があったんですけど、AかCのほうが、委員会のほうの先生たちは安全にできるという判断だったということで、その辺りをもう少し教えてください。

【指導主事】 はい。詳しくエピソードを話すと、Eのほうは、丸底フラスコなので、ちょっと実験道具として転がりやすくて、子供たちが準備しているときにバットに必ず入れておかないと、実験台の上へ転がって落として割ってしまうということであったりと、あと、丸底フラスコを持っているときに、もうゼリーを詰めた手の熱で温まってもうすぐ動いてしまって、子供たちが見る前にもう実験を終わってしまったというような先生方の失敗の話もあったりして、非常に動きとしては面白くて分かりやすいんですけども、すぐに実験結果が持っていると出てきてしまうというところで、そのタイミングが難しく、あと、安全管理上、割れやすい部分もあるので、ちょっとそこが冷や冷やすするというような意見が出ていました。

【教育長】 よろしいですか。

【富尾教育長職務代理者】 はい。分かりました。

【教育長】 ほかにはございますか。よろしいですかね。

ちょっと私からも、実験のところがやっぱり一番安全管理というところで、気になっているんですけども、今、お話があったみたいに、3年生から理科があるから。3年生のお子さんはいいですけども、6年生とか、3、4、5、3年間コロナでなかなか体験が積んでこれなかった子どもたちですよ。で、その子どもたちにとって、一番安全管理とか、そういう視点も含めて、この教科書のこういうところがよくなって、この教科書のこういうところがちょっと配慮が必要だなというような話って出ましたか。

【指導主事】 そうですね。先ほどの言ったE社も、実験は非常に慣れている先生方にはかなり好評であるんですけども、実際に今回の研究会の視点としては、3年間のブラ

ンクや、それから、新規採用、講師の先生方も、動画だけ見せるんじゃないくて、実験を挑戦してもらえ教科書であってほしいなという思いがあったので、それぞれのですね、あと、QRコードが下に載って準備しやすいのは、やはりCではなかろうかというような意見も出ていまして、やはり見開きですと、先ほどの話だと、AとCがやはり安全管理上、準備のほうでやや分かりやすいというような意見がありました。

【教育長】 はい。ほかに何か御質問等ありますか。

では、質疑や意見が出終わりましたので、最終的にどの教科書を推すのか、御発言いただきたいと思います。富尾職務代理者からお願いします。

【富尾教育長職務代理者】 私は、AかCかというようなお話がありましたけれども、前の教科書採択のときに、菅谷先生が星空のことをおっしゃっていて、で、それを私なりに見ましたところ、C社とE社がいいなというふうに思いました。E社は2ページにわたって、C社もちょっと多いんですけども、ありましたので。

【教育長】 何年生の教科書でしょうか？

【富尾教育長職務代理者】 4年生ですね。A社が145ページ、B社は126ページ、C社は152ページ、D社が148ページ、そして、E社が162ページ。実際の空に星座が描いてあるのが分かりやすいのかなんていうふうに思って、私は、E社が分かりやすいのかなっていうふうに思ったんですが、取り扱っているページ数もそれぞれ違っているとと思うんですけども、その点と、あと、実験の工夫については、ちょっと難しいのかもしれないんですけども、E社がやっぱり巻末にまとめられているところがあつたりとか、あと、裏表紙に理科の安全の手引きみたいを書いてあるところが毎回気をつけなさいよっていうメッセージにもなるのかなというのもあって、いいんじゃないかというふうに思い、E社でお願いします。

【教育長】 塚田委員、お願いします。

【塚田委員】 なかなか難しいんですけど、私は、A社を推したいと思います。

【教育長】 何か御意見はございますか。

【塚田委員】 意見は、今、富尾先生が言ったように、すごく星座がきちんと描かれているということね。それと、D社、E社もね、いいと思ったんですけど、D社は何かね、大き過ぎるような気がする。

【富尾教育長職務代理者】 大きさが。

【塚田委員】 大きさがね。で、E社、E社はコンパクトでいいと思うんですが、さっきの丸フラスコがすごく気になっています。

【富尾教育長職務代理者】 危ないですね。

【塚田委員】 気になって、結果的に、A社が無難だなって感じですかね。

【教育長】 はい。海沼委員。

【海沼委員】 私は、AかEかなと思ったんですね。E社は、この横がちょっと広いという感じで、大きさが、これ、AB判ですよ、何かこう理科の実験するにしても、さっき、理科の実験ではちょっといろいろありましたけれども、見たときに、これ、見やすいかなと思って、あと、中の字もちょっと太くて見やすいのかと思っていたんですけども、EかAで。

【教育長】 じゃあ、ちょっと考えていただいて。

私は、やっぱり実験を重視しますと、安全性というところでA社かC社かなと思いました。B社は、その丸底フラスコの扱いと、あと、全学校、これをまたそろえなければいけないってところもあります。あと、ゼリーを使っているので、このままこれを授業で実験するとなると、食べてはいけないとは書いてあるんですけど、食べちゃう子が危ないかなって思います。C社は、そういう意味では、実験のところをずっと重視して考えているなと思ひまして、AかCと思ったんですが、どうでしょうね。難しいところなんですけど、悩んでいらした海沼委員はいかがですか。

【海沼委員】 Aのほうが、今のフラスコの件を伺うと、E社は置いておいてと。それで、星座を見ますと、やはり星座も、A社のはとてもこう、何か春の星座というのも出ていますし、ほかにも出ていたと思うんですけどもね。出ていたと思うんですけども、何かちょっと見やすかったかなと思って。ほかのところも、「ふりかえろう」とか、そういうのが、実験結果を見ながら、やはりいいのかなと思ひまして、A社を推薦します。

【教育長】 C社も、この下にあるQRコードも捨てがたいなと思うんですが、皆さん、Aを推すというお声のほうが多いので、A社がいいかなと思ひます。富尾委員はいかがですか。

【富尾教育長職務代理者】 はい。大丈夫です。

【教育長】 それでは、A社ということで、A社に仮決定をすることといたしますが、御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

【教育長】 それでは、理科はA社に仮決定をいたします。

続いて、生活について説明をお願いします。

指導主事。

【指導主事】 私からは、生活科の教科書について説明いたします。

生活科は、具体的な活動や直接体験を通して学習することが教科の特徴になります。授業時数は、1、2年とも週3時間、年間105時間です。学習指導要領には、小学校と幼児期との滑らかな接続について記してあり、入学時に幼児期に身につけたものとの連続性を重視しています。特に、小学校の入学当初においては、幼児期の遊びを通じた総合的な指導を通じて育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、スタートカリキュラムを児童や学校、地域の実情を踏まえて編成しています。その中で、生活科を中心に合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うことが求められております。

それでは、各社の特徴について説明します。

生活科は6社ございます。教科書は、各社、上下巻の2冊ですが、主に1年生で上巻、2年生で下巻を使用することになります。

まず、1、内容面での特色について御説明します。

(1)については、各社、赤色の付箋を見てください。

こちらは、スタートカリキュラムを比べて御覧いただければというふうに思ひます。各社とも、低学年児童の発達段階を踏まえ、イラストや写真を多用するとともに、低学年が親しみを持てるようキャラクターを登場させ、小学校の1日の生活が写真や絵を使って紹介されています。

A社は、9ページの右下にありますように、保護者に向けてスタートカリキュラムや幼児期に育てたい10の姿についての説明がされています。

B社は、1から13ページにわたり、スタートカリキュラムが扱われており、そのうち4から9ページまでは、「幼児期までに育てほしい姿」がページの下部に示してあります。

C社は、イラストを使って、困ったら先生や上級者に相談できる安心な場所であることを中心に取り上げています。

D社は、4ページから8ページにかけて、入学前にできるようになっていることを思い出し、学校生活と比較できるようにしています。

E社は、就学前の生活との比較を促す問いの設定や遊びを各教科の紹介につなげています。

F社は、保護者に向けて、スタートカリキュラムや幼児期に育てたい10の姿についての説明がされています。

続いて、(2)内容の分かりやすさへの配慮について、1年生の上巻の家族単元を例として説明いたします。各社、上巻、オレンジ色の付箋を御覧ください。

こちらの単元では、各社、取組へのテーマがあり、A社、C社、D社、E社は、家族に感謝し、家族の一員であることを取り上げています。B社、F社は、自分でできるようになったことを中心に取り上げています。また、A社、B社、F社は、テーマの語尾が作戦というふうになっており、家の人の仕事を知り、自分にできることに挑戦する流れがあり、ふりかえりも作戦や挑戦したことを振り返るようになっています。

続きまして、(3)小学校と中学校の学習面の接続や系統性、関連性への配慮です。

3年生からの理科や社会との接続や関連性について分析いたしました。まず、理科との接続や関連性について説明します。

各社、観察カードを教科書に載せており、書き方のヒントが記されています。また、栽培のコツも示されています。C社は、多数の植物の育て方を記しておりました。生活科で学習した内容は、3年生の社会と理科につながる内容が巻末に各社、記されています。

(4)発展的な学習内容についての配慮は、各社、巻末資料の発展課題を提示するページがあります。各社、青色の付箋を御覧ください。

A社は、上下巻それぞれに巻末に「ひろがるせかじてん」として、日常生活で必要な習慣や技能について別冊でまとめられており、切り離しができるところです。

B社は、習慣や技能の学び方を「かつどうべんりてちょう」として記載しています。

C社の「学び方図鑑」では、9つの観点で構成されており、「こんなときどうしよう」では、実際の単元を例に挙げ、学び方のヒントを記載しています。

D社は、「学びのポケット」で単元ごとに他教科との関連を明記しています。また、見方・伝え方・調べ方・道具の扱い方など記載されています。

F社は、安全に関する知識や道具の使い方など、身につけたいことが紹介されている「がくしゅうどうぐばこ」「Webがくしゅうどうぐばこ」が記載されています。

E社は、「がくしゅうずかん」があり、観察やインタビューの仕方、手紙の書き方などがまとめられています。

次に、2、構成と分量について説明いたします。

2の(1)は、二次元コードを比較しました。

A社の二次元コードは、資料ではなく、安全に関するものでした。

B社は、691点のコンテンツが見られ、6社の中では一番多くなっております。

D社は、教科書会社へのリンクとなっており、ワークシートも提示されております。

(2)、(3)については、大きな差異はございませんでした。

次に、3、表記、表現についてです。こちらについても、各社とも差異はございません。

次に、4、学習活動の(1)は、各社、学び深めるようなふりかえりの活動を入れたり、イラストの吹き出しのつぶやきを入れたりして、主体的な活動を誘発しています。

(2)においては、各社とも、それぞれの単元に調べ方や活動の広げ方のヒントが吹き出し等で記載されております。

次に、5、造本についてです。

D、F社は、A4判となっております。その他は、A4判のつくりとなっております。B社、F社のスタートカリキュラムのページが少し短く切断されております。なお、B社は、ほかの教科とも同じように軽量化されております。

次に、6の地域性についてです。

各社とも掲載されている町や公園の様子が品川区になじみのあるものです。また、ダンゴムシなど、品川区で発見しやすく、児童にとって身近な生き物の例も示してあります。

A社、上巻23ページの緑色の附箋を御覧ください。

こちらは、品川区立芳水小学校の教員と児童が撮影されております。また、27ページには、大崎駅前交番が掲載されておりました。また、A社下巻の68ページ、こちらには、品川区にある和菓子処くらたやが掲載されております。

最後に、7の総合所見についてです。

次のような長所、特色がございます。

保護者向けメッセージがあったのは3社ございました。A社は、各単元に、B社は、13ページから成るスタートカリキュラムの下段に、D社は、独自にメッセージがありました。

B社は、教員支援として、環境例・板書計画の例示、育てたい資質・能力が見えるようになっております。F社は、学習指導要領に合わせた指導方法、板書計画、教室環境、教師の言葉がけの例等が掲載されております。

C社は、各ページ右下に、次の学習につながるイラストや吹き出しがあり、学習への期待や見通しが持てるようになっております。

また、E社については、SDGsについてまとめて紹介しているページがあり、マークでSDGsにつながる活動であることを紹介しております。

以上で、生活科の説明を終わります。御審議、よろしくお願ひいたします。

【教育長】 説明が終わりました。御質疑・御意見はございますか。

富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 生活科の中ではどのように教科書を使って授業を進めていくのでしょうか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 調査委員会の中で出た話題としては、まず、生活科は、活動が主に中心

になることから、教科書を使う場面としては、やはり単元の始め、それから、単元の終末にかけて使うことが多いというような意見が委員の先生から出されておりました。

【教育長】 よろしいでしょうか。

【富尾教育長職務代理者】 はい。

【教育長】 塚田委員。

【塚田委員】 Aのこの漫画ですね、これは有名な漫画なんですか。

【教育長】 指導主事。

【指導主事】 こちら、多分手に取っていただいて、ちょっと特徴的かというふうに思いますが、絵本作家のヨシタケシンスケさんが描いたものです。

【教育長】 絵本作家ですね。

【塚田委員】 分かりました。

【指導主事】 委員の先生方からは、やはり保護者受け等は大変よいのではないかなというようなことと、あと、やはり読み物としても児童も関心を持って読むのではないかなというような意見もありました。

【教育長】 よろしいでしょうか。

【塚田委員】 はい。

【教育長】 海沼委員、お願いします。

【海沼委員】 私も、ちょっといいかなと思って、ヨシタケさんのね、これが見やすいかなと思っていたところなんですね。

あと、B社の写真が大きくて見やすかったかなと思っていたんですけど、でも、見やすいのはやはりA社のヨシタケさんのが出ていると、何となく安心感がある感じがしました。

【教育長】 先ほど富尾職務代理者のときに、御質問に、単元の始めと終末、終わりに使うということだったんですけども、そういう視点で何かこう、A社からF社、特徴ってありますか。どこのがどう使いやすいかとか。

指導主事。

【指導主事】 調査委員会の中では、やはり先ほど海沼委員がおっしゃったように、最初に写真を見て、どんな学習をするのかなというような興味を持たせるといったところでは、この写真の撮り方については、先ほど出ましたB社、様々な角度から子供の目線で撮られているというようなところで、非常に興味関心、持たせやすいのではないかなというようなことは出ておりました。

【教育長】 ほかの会社はいかがですか。

【指導主事】 はい。また、単元のイメージを持つというところにおいては、C社ですね、こちら、開いたときに単元の見通しがしやすいといった視点では、こちらのC社のは見やすいというような御意見が出ていたところでは。

以上です。

【教育長】 ありがとうございます。

海沼委員から、A社が分かりやすいんじゃないかという御意見があったんですけど、A社については何か出ましたか。

指導主事。

【指導主事】 A社については、児童に気づきを促すというようなところで、もちろん、先ほど出ましたイラストを使って興味関心を引くというようなところはございました。また、振り返りといいますか、ページの「こんなこともあるかもね」とかですね、ほかにも、「こんなのもいいかもよ」というような、児童の失敗例を出しているというようなところも、親しみが持てるのではないかというような意見が出ていたところはございました。

【教育長】 はい。ありがとうございます。

ほかに御質問ございますか。よろしいですね。

それでは、御質問、意見が出終わりましたので、最終的にどの教科書を推すのか、御発言をいただければと思います。富尾職務代理人、お願いします。

【富尾教育長職務代理人】 どの生活科の教科書も、みんなワクワクするような、持ったら、うれしくなるような感じがして、どれもいいなと思ったんですけど、中でも、私はA社が一番いいかなというふうに思いました。以上です。

【教育長】 塚田委員、お願いします。

【塚田委員】 私もこの漫画がね、ヨシタケシンスケさんの、どこことなく親しみがある感じがして、A社がいいんじゃないかなと思いました。

【教育長】 はい。海沼委員、お願いします。

【海沼委員】 私も、AかDかなと思ったんですけども、このヨシタケさんのこの表紙から見て子供たちも入りやすいのかなと思って、A社にします。

【教育長】 はい。ありがとうございます。

私は、AかBかというところで思っていたんですが、私は、あんまり人の顔の写真が大きいのは、気になって、B社のほうがいいと思います。そういう視点では、A社のほうが分かりやすさ、いいかなというところ、あと、この分冊になっているほうが使いやすいのかなという気がします。

全員一致でA社でしたので、A社に仮決定をすることにいたしますが、御異議ありませんか。

(「異議なし」の声あり)

【教育長】 それでは、生活はA社に仮決定をいたします。

ここで、10分間の休憩を挟みます。

(休 憩)

【教育長】 それでは、再開いたします。

次に、日程第2、報告事項1、令和4年度後期一般監査の措置結果について、説明をお願いします。

庶務課長。

【庶務課長】 それでは、私から、令和4年度後期一般監査の措置結果について、資料2に基づいて御説明を申し上げます。お手元に御用意をいただければと思います。

資料2の全体の構成ですが、前半が、区長部局に関するところでございます。何枚かページをおめくりいただきまして、ページ番号が7と記載をされたページの次、その次、㊦と書かれたページ、この右上に73号という記載のあるページ、それを一枚おめくりいただきまして、また、1とページ番号が出ておりますので、そこから御説明を申し上げたいというふうに思います。

まず、1 ページでございます。

1 ページと2 ページが契約事務に関する指摘でございます。修繕の請負に関する契約であるにもかかわらず、予算科目を誤って工事請負費としてしまい、結果として、契約権限を超えて主管課にて契約締結を行ってしまったという指摘でございます。こちらは、修繕と工事の区別に関する認識が不十分であったことによるものでございます。今後は、修繕とその工事の考え方についての正確な理解、こちらに万全を期するとともに、契約事務の適正化、適切な予算管理に努めてまいるといふものでございます。

おめくりいただきまして、2 ページを御覧いただければと思います。どちらも契約事務に関することでございます。

物品の購買契約に関する、契約事務に関する指摘でございます。こちらは従前からの分割契約の事例に加えまして、今回は、予算科目を一般需用費と備品購入費とに分けてしまい、同種の物品を同じ日に同じ事業者から分割して契約を締結した事例も見受けられたという指摘でございます。こちらについて学務課において、学校予算の令達時に改めて事務執行に係る注意喚起を行うなどの組織的な取組を講じられたいという指摘でございます。

こちらにつきましては、経過でございますが、購入を要する物品が発生した時点で、その都度契約事務を行ってしまっていたということによるものでございます。この分割して契約を締結したということにつきましては、所管課の権限では科目併合の事務処理ができないものというふうに誤認をしていたということで、正しい知識が欠如していたということでございます。こちらにつきましては、監査終了後に、学務課から、改めて計画的な一括発注の徹底について、周知を行ったものでございます。

3 ページを御覧ください。

ここから6 ページまでが、指定消耗品の消耗品の管理に関する指摘事項でございます。

3 ページの指摘ですが、区内の共通商品券、こちらが、受け入れたとき、使ったときに使う記帳をする受払簿、こちらが年度末に記載の「受」欄と「払」欄の枚数が一致をしていなかったという指摘でございます。こちらにつきましては、処理経過ですが、年度末に、本課に返却した商品券に係る記帳を失念をしていたというところで、今後、消耗品の増減が生じるタイミングで、その都度、遅滞なく記帳し、年度末、年度当初の点検を徹底してまいります。

続けてまいります。4 ページを御覧ください。

こちら、区内の事業で使う共通商品券に係る受払簿が、その都度の決裁がなされていないという指摘でございます。今後は、着実に記帳、それから、決裁を行いまして、適切な事務執行、指定消耗品の管理を行ってまいります。

続けて、5 ページ、御覧いただければと思います。

こちら、指定消耗品の受払簿に関する指摘でございます。使用時における受払担当者、それから、使用者の確認漏れに加えまして、訂正印の押印漏れ、さらに、記帳漏れが散見されるという指摘でございます。こちらにつきましては、郵券を現金と同様に公金として取り扱う意識、こちらが欠けていたというところがございます。今後は、受払簿の記入例を備えて定期的な点検、それから、適正な事務執行、指定消耗品の管理を行ってまいります。こちらにつきましては、監査終了後、速やかに過去の記帳について確認をし、訂正を行いました。

続けてまいります。6 ページを御覧ください。

こちら、消耗品の受払簿について、年度末の累計欄への記帳が、記載がなされていなかったという指摘でございます。こちらは、年度末の記帳を失念していたということによるものでして、監査終了後に直ちに年度末の累計欄の記帳をいたしたところでございます。

続けてまいります。7 ページを御覧をいただければと思います。

こちらから9 ページにかけてが教材費に関する指摘でございます。

こちら、7 ページは、教材費の決算報告について、監査役による会計監査の終了後に保護者全員に決算報告書を知ることとされているにもかかわらず、対象部局のうちの半数程度の学校において、会計監査が行われる前に保護者への通知が行われてしまっていたという指摘でございます。こちら、事務取扱要綱の規定内容を正しく認識していなかったということで、庶務事務の説明会において適正な決算報告、それから、監査の手続について周知徹底を図ってまいります。本件につきましては、監査終了後、事務の説明会において、決算報告の手続について、再度周知徹底を図らせていただきました。

続けてまいります。8 ページを御覧ください。

こちら、教材費の取扱いにつきまして、その月の収支が確定する前に管理職による確認（押印）が行われてしまっていたという指摘でございます。こちらは、事務の担当者が任意に確認日を設定をしまい、その時点における金銭出納簿の残高、通帳残高との一致を確認していたということによるものです。本件を受けまして、認識を改め、適切な事務を行ってまいります。

続けてまいります。9 ページに関してでございます。

9 ページは、1 学期に購入した教材費、こちらを9 月2 9 日、要は2 学期まで支払いを行っていなかったということでございます。こちらは、教材の使用時期が前倒しとなった一方で、費用の徴収を当初の予定どおり行ってしまっていたということでございます。今後は、事業計画の変更に合わせて、適切な時期の教材費の徴収を行ってまいります。教材を使用する活動が9 月から6 月に急遽変更になってしまっていたにもかかわらず、事業者への支払いの時期がそれに伴っていなかったというものでございます。

続けてまいります。1 0 ページを御覧いただければと思います。

理科室の管理についてでございます。こちら、従前の指摘事項の同様の不適切な管理事例がまだまだ数多く見受けられるということで、今回、アからエの4 点について御指摘をいただきました。本件を受けまして、研修会場校において整理された状態の理科室の内覧会を、内覧の機会を設け、その場で質疑応答を行い、また、学校が管理方法に疑問や不安を感じた際には、的確な指導助言を行うなど、理科室の管理に係る相談体制の強化、それから、教育委員会から直接学校に出向いて指導助言を行う機会などなど、現場での実証、事例検証・意見交換を通じて、学校の管理実態の把握に努めてまいります。

続けてまいります。1 1 ページでございます。

こちらは、教育職員に係る特殊勤務手当について、その支給時期が勤務日から6 月以上経過した後に支給をしていたという事例がありました。具体的には、5 月分の手当が1 1 月に、それから、4 月分、5 月分、6 月分の手当が1 2 月まで行われていなかったという指摘でございます。こちらにつきましては、部活動の実施状況の把握が不十分であったことに加えまして、該当教員からの申請が遅れたことによるものでございます。今後は、申

請期限の遵守、それから、職員会議などを通じた周知徹底、さらに、部活動の実施状況の確かな把握ということで、適正な支給事務を行ってまいります。

最後までございます。12ページを御覧ください。

こちらは、東京都が任用した会計年度任用職員について、本来でしたら、東京都が定めた様式で勤務時間の振替を行うべきところを、こちら、定められた様式を使っていなかったということで指摘でございます。今後、このようなことのないよう、適正な振替命令簿を用いまして、事前の所属長の決裁を受け、勤務時間の振替を行うことを徹底してまいります。

以上でございます。

【教育長】 説明が終わりました。

質疑はございますか。富尾職務代理者。

【富尾教育長職務代理者】 いつもある理科室の管理についてですが、今後気をつけていきますということですけども、もう既に何か取り組んだことはあるのでしょうか。

【教育長】 庶務課長。

【庶務課長】 こちらにつきましては、資料にも書かせていただきましたとおり、これから、各研修会場等において、整理された状態を見ていただくですとか、それから、質疑応答、相談体制の強化ということで、これら、総合的にこれからしっかり対応してまいりたいというふうに考えております。

【富尾教育長職務代理者】 分かりました。

【教育長】 塚田委員。

【塚田委員】 理科室の問題は、我々教育委員も行くたびに理科準備室を拝見しているんですけど、それでもこれは改まらないんですかね。

【教育長】 庶務課長。

【庶務課長】 そうですね。ということで、今回、また、一つ一步踏み込んで、また新たな取組ということで、この資料に書かせていただいた取組を今年度進めてまいりたいというふうに思っております。

【塚田委員】 了解しました。

【教育長】 ほかによろしいでしょうか。

では、令和4年度後期一般監査の措置結果についてはよろしいですか。

(「はい」の声あり)

【教育長】 本件は了承いたします。

そのほかにもございますか。

【庶務課長】 ございません。

【教育長】 それでは、先ほど決定しましたとおり非公開の会議を開きますので、傍聴の方は御退室願います。

— 了 —